

民具の機能分析に関する基礎的研究

期間：2017年4月1日～2021年3月31日

[共同研究者] 眞島俊一（テム研究所）

山田昌久（首都大学東京）

山川志典（筑波大学大学院人間総合科学研究科
博士後期課程）

佐野賢治（日本常民文化研究所）

[代表者] 神野善治（武蔵野美術大学）

[研究協力者] 川野和昭（南方民俗文化研究所）

佐々木長生（福島県民俗学会）

鍋田尚子（歴史民俗資料科学研究科博士後期課程）

宮本八恵子（日本民具学会）

安ヶ川恵子（富山民俗の会）

[業務協力者] 長井亜弓

形態と機能の関係を探る

——形態を捉える3つの視点——

研究代表者 神野 善治

日本各地にはすぐれた民具のコレクションが多く分野にわたって蓄積されている（とりわけ生活用具が国指定の文化財としてこれほど保存整備されている国は世界的にも例がない）のだが、これらを横断的に、積極的に活用した研究は決して多くない。立ち遅れのひとつの理由は膨大なコレクションを相互につなぐ手がかりが確立されていないことだろう。そこで本研究では、かつて渋沢敬三や晩年の宮本常一が模索した「民具の機能」を手がかりにした分析方法を再検討して、新たな見方を提案することを目的とした。

1年目では、改めて「民具の機能」とは何かを基礎的に捉えるために、すぐれた民具コレクション（具体的には富山県砺波地方の民具コレクション）を対象を選び、個別資料をひとつずつ検討することを計画して調査を重ねた。2年目もこの作業継続を研究活動の中心とし、個別の資料から基本的な形態のあり方（基本形状）を抽出し、これに重ねてそれぞれの機能を捉える方法を見出すことを試みた。「形態と機能」には深い関係が見出せるものの、それを一義的に対応させることは難しい。たとえば単純な形態を持つ民具から「棒状」の民具をとりだしてみると、多様な機能に及ぶことを確認できる。一方、布を織るハタ（織機）が多様な棒で構成されることに注目すると、一見、同じようにみえる棒も細部がそれぞれ異なり、機能が分担されていることがわかってくる。すべての民具についてこのように細部の違いを見極めるのは、これからの個別テーマになるが、広く民具の形態を捉えるときの視点を見出すことが本研究の課題である。

現段階では民具の形状を、3つの視点を設けて検討することを試みている。それは①民具全体が示す形状、②対象に対して働く「作用部の形状」、③その民具と身体をつなぐ「結節部の形状」（典型は「柄」や「取っ手」）である。これらに注目しながら、上述のコレクションの全民具について、素材・規模・機能などのリスト化の作業を進めている。記述方法は作業をすすめながら検討を重ねる方法をとっているため、進捗状況はコレクション全体の5分の1程度に留まっている。しかし、この試行錯誤がそのまま本研究の主題であるので、後半に進むほど作業は加速度を増すことが期待される。

一方、本研究では、民具の形態と機能の分析方法を海外の民具との国際的な比較方法として確立

させることも視野に入れている。1年目で予備的調査を行ったベトナムの民具調査が2年目に短期的ながら実現したが、これも前述の視点での分析ができるかどうか今後の課題である。



写真1 一軒の家で使用されていた「桶」を事例に、その多様なバリエーションと機能について語る眞島俊一氏
(於：国際常民文化研究機構／2018年7月)



写真2 宮本八恵子氏を中心とする所沢飛白研究会のハタマキ作業を通して、織機の一部としての棒が指や手とどのように絡むか等を確認
(於：東大和市郷土資料館／2018年9月)



写真3 漁船までのハシケ代わりに利用されている籠舟の使用状況と製作現場を調査
(於：ベトナム／アン・ズン村／2018年10月)



写真4 新藤正夫氏（砺波郷土資料館元館長、地理学者）に来ていただき、民具の使用状況に関する聞き取り調査を実施
(於：砺波郷土資料館砺波民具展示室／2018年11月)

■ 2018年度の活動

- 2018年度第1回共同研究会 2018年5月14日 国際常民文化研究機構 神野善治・佐野賢治・眞島俊一・山川志典・川野和昭・佐々木長生・鍋田尚子・安カ川恵子・長井亜弓
- 在来単用スキに関する資料調査 2018年5月16日 東京農業大学「食と農」の博物館 安カ川恵子
- 第2回共同研究会 2018年7月7日～8日 国際常民文化研究機構 神野善治・佐野賢治・眞島俊一・山田昌久・山川志典・川野和昭・佐々木長生・鍋田尚子・長井亜弓
- 第3回共同研究会 2018年9月22日～23日 東大和市郷土資料館、国際常民文化研究機構 神野善治・眞島俊一・山田昌久・山川志典・川野和昭・佐々木長生・宮本八恵子・鍋田尚子・長井亜弓・宮坂卓也（テム研究所）
- ベトナム（フエ）農具・漁撈具・籠舟・焼酎蒸留用具等民具調査 2018年10月21日～25日 ベトナム社会主義共和国・フエ近郊 神野善治・佐野賢治・眞島俊一・山田昌久・山川志典・川野和昭・佐々木長生・鍋田尚子・長井亜弓
- 第4回共同研究会および砺波民具調査 2018年11月9日～11日 となみ散居村ミュージアム、砺波民具展示室（富山県砺波市）、中央公民館、市立博物館（氷見市） 神野善治・眞島俊一・山田昌久・山川志典・佐々木長生・川野和昭・鍋田尚子・安カ川恵子・長井亜弓、脊戸高志・齊藤恵子（砺波郷土資料館）、新藤正夫（元砺波郷土資料館館長）